



千葉運輸区新聞最終号 担当者の想いに学ぶ！

先月辺りで地本内分会再編が終了し、旧分会が発行していた機関紙も最終号を迎えました。私たちの「蘇我運輸区分会ニュース」も然りであります。

千葉運輸区では担当者が定年による最終乗務の前日（7月19日）に最終号が発行されました。普通だったら、気持ち的にもそんな余裕もない時期と思いますが、担当者がずっとこだわり続けてきた「自分たちの運動を職場に残したい」「労働

組合の重要性を理解してもらいたい」との想いを伝える活動を最後の最後まで貫き通したのだと思います。本当に頭が下がる思いです。担当者は以前より若い人たちの悩みや不安などをとことん聞き込んだ上で、



の少しでも実践することで、前向きになれるのではないかと思います。もうひとつふんばり！

今年の夏季輸送、 どうだったか？！

夏休みももう少し残っていますが、皆さんお疲れさまでした。歴史に残るような殺人的な暑さの中、乗務途中でリタイアする乗務員もい

ましたが、無理ありません。

コロナ禍が5類に移行しての初めての夏期輸送、一気に人が増えたのは何処の線区も同じかと思います。まだ様々な問題点を残しつつも、世の中が再び活況を迎えつつあるのかと思いました。

千葉支社から、お盆の房総特急利用状況は前年比121%、近距離発売枚数は120、2%と発表がありました。

夏期輸送に関する問題点、私たちの働かされざまはどうだったか、検証したいと思いません。ご意見お待ちします。

うたてつ ノススメ②

アメリカ橋 (狩人) 1979年2月

- ①アメリカ橋って知ってますか
目黒と恵比寿の間にある
下を山手線轟々走る
鉄で出来た青い橋・・・
- ②アメリカ橋は残るでしょう
私が東京を離れても
そしてあなたを思い出す時
山手線の音がする・・・

デビュー曲「あずさ2号」で大ブレイクした爽やか兄弟デュオの7枚目のシングル。実はカバー曲で、最初1976年の湖東美歌という女性歌手がオリジナル。ほとんど売れずに作者が再度歌手を探して狩人に歌わせてヒットした。湖東美歌バージョンも擦り切れそうなのはかき氷の歌声が魅力で、甲乙つけがたい。狩人版と2番の歌詞が若干異なる。左枠の歌詞は1番と2番の

唄い出し部分。主人公がこの橋の名前や由来を彼から聞いたのが最後の思い出となり、また強い印象で彼女の心に残るものとなったようだ。二人の思い出に常に山手線があったということも伺える。「気圧配置」「いわし雲」といった歌の詩としては珍しいワードもあり、個人的に強い印象を受けた。歌のメロディは覚え易く素直なのに、コード進行はAmのキーだが、B♭やBmが入る（自分が思うに）変則的なもの。はかないメロディと歌詞がベストマッチした名曲である。

実在する橋で、正式名称は「恵比寿南橋」。1906年のアメリカ万博で展示され、当時の国鉄が買い取り、1926年に架けたという。現地まで行くと由来のプレートがあるらしい。（山川豊に同名異曲があるので注意）